

平成19年度外部評価の反映状況

	事業名	所管課	H19所管課の評価	H19外部評価意見	H19外部評価	H19当初予算(千円)	H20当初予算(千円)	H20への外部評価意見の反映	H20所管課評価
1	交通安全対策事業	市民課	現状継続	交通安全対策は、やればやっただけ効果が高いことが分かる。平成18年度は特に死亡事故が多かったということで、非常事態対応が続いたが、中でも安全タスキがけの取り組みは、特に効果が高いと感じた。交通安全は、様々な機会をとらえて呼びかけられているが、安全タスキ着用や自転車の反射板装着、シートベルトの着用率向上のような実際の行動に結びつかなければ効果が無い。よって、今後の方向性は、交通災害の予防には市民の自主的な行動を促すような積極的な取組みが必要という意味で「拡大継続」が妥当である。	拡大継続	12,134	15,404	・高齢者の安全教室の回数を増 ・市内高校で、自転車の交通安全について指導・啓発 ・安協と共同で、不要になった公共下水道の看板を活用して啓発看板を作成 ・機会をとらえて随時取組みを実施	拡大継続
2	安心・安全な農業支援事業	農林課	現状継続	食の安全に対する消費者のニーズは高まっており、エコファーマー認定制度などの消費者の信頼を高める制度には、将来を見据えて積極的に取り組むよう生産者に働きかけて欲しい。JA須高の働きかけもあり、生産者の関心は高まっているようなので、今後の方向性は「拡大継続」が妥当である。	拡大継続	1,273	1,273	・今年中に800人の認定を行う。農業者も積極的に認定を受ける雰囲気になっている。 ・農業者に意義を理解してもらうよう努力する	現状継続
3	休廃止鉱山対策事業	工業課	現状継続	酸性水の中和事業等による根本的な解決は、莫大なコストや二次公害を考えると難しい状況にあり、現時点では、各地の休廃止鉱山対策の情報を集めながら、植栽等の長期的な取組みや定期的な観測をきちんと継続していくしかない。よって、今後の方向性は担当課の判断と同じく「現状継続」が妥当である。	現状継続	1,172	1,333		現状継続
4	土産品等開発事業	商業観光課	現状継続	須坂らしいお土産を望む声は多い。新しいお土産の開発は、製造業者だけに任せるのではなく、市民がアイデアを持ち寄って、その中から商品化可能なものを形にしていって、それを販路に載せて行く、というプロセスも大切である。また、既存のものの中から、須坂ならではの土産を掘り出すことも考えられる。制度のPRは、想像力を膨らませて、だれもが可能性にチャレンジできるような制度だということをアピールしてほしい。よって、制度のアピールに工夫を凝らすという意味で、今後の方向性は「拡大継続」が妥当である。	拡大継続	378	378	・4月市報で制度をPRしたところ、反響があり、既に当初予算分をオーバー ・9月議会で予算を増額予定	拡大継続
5	まちづくり推進事業	まちづくり課	現状継続	景観の保全に関する取り組みは、蔵造りの町並みといった、歴史的景観に偏るのではなく、市内各所のすばらしい景観を守り、紹介し、さらに良くしていくような取り組みこそ、地域に対する誇りと呼び覚まし、まちづくりの推進につながるのではないかと。現在、花と緑のまちづくりに見られる、きれいな景観づくり活動が各地区で実施されているので、こうした活動と一体化した、効率的な事業推進も考えられる。よって今後の方向性は「効率化継続」が妥当である。	効率化継続	5,928	6,822	・団体に対する補助金は平成20年度で廃止 ・今後、区を単位とする団体の景観形成住民協定の締結を推進	効率化継続
6	町並み整備助成事業	まちづくり課	現状継続	蔵の町並みについては、市民の間にも賛否両論あり、個人の財産に対して税金を投入することの不公平感が付きまとう。また、せっかく修理しても、十分に活用されていない建物もある。ただ、蔵造りの建物に対する、内外の専門家や訪問者からの評価は高く、須坂市の財産という考えも理解できる。現行の補助制度は、歴史的な建物だけでなく、新築の建物も対象としているが、広い対象地区の建物全てに税金を投入することは現実的ではないので、須坂市の財産として残したい歴史的な建物に、税金を集中する等、制度を見直す必要がある。よって今後の方向性は「縮小継続」が妥当である。	縮小継続	9,256	4,193	・修理・修景について、今年度は1件の実績があったがこのところ希望者がいない状況が続いている。 ・国の補助制度は平成21年度で終了予定。	縮小継続
7	文化活動振興事業	生涯学習体育課	現状継続	文化の振興をしようとしても、事業に参加してもらえなければ価値は無い。事業に対する市民の参加数は、イベントのインパクトと積極的なPRが直接影響している。最近のイベントでは、新聞広告等のPRを積極的に行い、参加者にアンケートを実施して、文化振興を図っていくという姿勢が見える。よって、これを継続することで、今後の方向性は担当課の判断と同じく「現状継続」が妥当である。	現状継続	26,817	25,431		現状継続
8	文化財保存活用事業	生涯学習体育課	現状継続	平成18年度は土地の購入等で、特に事業費が膨らんでいる。文化財の保存にはお金がかかることもわかるが、何故、これだけの事業費が必要なのか等、市民にわかりやすく説明して欲しい。その他の事業は、イベント等を活用して工夫して実施していることがわかる。よって、今後の方向性は担当課の判断と同じく「現状継続」が妥当である。	現状継続	#####	21,633		現状継続
9	創造の家教室等開催事業	生涯学習体育課	現状継続	比較的若い世代の生涯学習の場として定着していることが分かるが、女性に片寄っている点や、平日昼間の利用が少なく、夜間のサークル活動のニーズが高いなど、課題も見えている。勤労青少年福祉施設という位置付けから、教室等開催事業は対象者をある程度絞り込み、その対象者に合わせた企画が求められているのではないかと。また、施設の有効的な活用を考えると、勤労青少年以外の市民に対する施設開放も視野に入れて検討すべきである。よって、教室等開催事業は、よりニーズに合った魅力的な教室等に特化し、施設が効率的に利用される姿を目指すという意味で、今後の方向性は「効率化継続」が妥当である。	効率化継続	5,092	4,174	組織のあり方に関する検討会議で、創造の家のあり方を検討中	現状継続

事業名	所管課	H19所管課の評価	H19 外部 評価 員 意見	H19外部 評価	H19当初 予算(千 円)	H20当初 予算(千 円)	H20への外部評価員意見の反映	H20所管 課 評価
10 公民館活動事業 (プロジェクト)	公民館	現状継続	現在、公民館は無料で利用でき、生涯学習活動が活発に行われているが、冷房や暖房については利用者から負担をいただくのが望ましい。また、民間の教室等との住み分けも進めるのであれば、教室使用料についても検討をしないと、不公平である。各地域の公民分館事業は、継続する事が目的となっており、新たな取組が生まれ難い状況ではないだろうか。69自治会の枠に囚われず、各地域の実状に柔軟に対応できる制度への変換も検討して欲しい。よって、今後の方向性は「効率化継続」が妥当である。	効率化継続	36,555	38,438	・冷暖房については、公民館運営審議会からも理解できるとの答申をいただいております。市施設全体の使用料見直しに合わせて取り組む ・各町の公民文館事業については、現状の制度でも近隣の自治会との共同事業は可能で、野辺町と望岳台の事例について公民館研究集会で報告する等、共同事業の実施を呼び掛けている。	現状継続
11 学校人権 同和教育 推進事業	人権同和 教育課	現状継続	目指す値は、毎年成果が量れるものにならないと、効果が出ているのかわからない。また、各学校に全て任せるのではなく、どういう姿を目指しているのかをきちんと学校に伝え、各学校が、その姿に向かってきちんと取組むように支援・アドバイスすることが必要。「部落解放・人権尊重都市宣言」をしている須坂市の住民として、小中学校時代に、きちんと勉強する機会を提供して欲しい。よって、各学校の取り組みの質を上げるという意味で、今後の方向性は「拡大継続」が妥当である。	拡大継続	2,760	3,077	学校人権同和教育及びPTA人権同和教育の強化推進を図るため、学校推進校を指定し、学習の成果を部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集会及び人権同和教育研修会で発表	現状継続
12 人権教育 推進事業	人権同和 教育課	現状継続	人権問題は日常の様々な場面で発生している、身近な問題である。多くの場面で気づかずに過ぎてしまっている現状から、誰もが当事者になりうる事を、もっと学習する必要があるのではないかと。部落差別も重大な人権問題の一つであるが、本質は他の人権問題と共通の部分が多く、全ての人権問題に対して、解決のための様々なアプローチを、市民全体で考えていく時期に来ていると感じる。よって、これまで以上に市民の声を聴いて、課題解決のために工夫を凝らすという意味で、今後の方向性は「拡大継続」が妥当である。	拡大継続	8,650	9,159	差別のない社会の実現のため繰り返し学習し、意識啓発を進めることが大切であるとともに、差別がある限り事業は続ける。	拡大継続